

20th

Anniversary
Euglena Co., Ltd.

Logmi IR LIVE

個人投資家様向けIRセミナー

株式会社ユーグレナ
東証プライム市場（証券コード：2931）

2025.09.24

【免責事項】 本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。

会社概要

微細藻類ユーグレナ - 生物としての特徴とポテンシャル

<パラミロン>



撮影：青山学院大学 福岡伸一教授

- β -1,3-グルカンと呼ばれる食物繊維の一種で、ユーグレナが生成する希少成分
- ヘルスケア素材として、様々な機能が期待される

- 動物と植物の両方の特徴
 - ⇒豊富な栄養素
 - ⇒細胞壁を持たない
- 希少成分パラミロン
- 体内に油脂を生成

食品原料



※ 各種食品・ユーグレナに含まれる栄養素

化粧品原料



ユーグレナ
エキスEX



ユーグレナ発酵
オイル

飼料



畜産



養殖

肥料



有機肥料



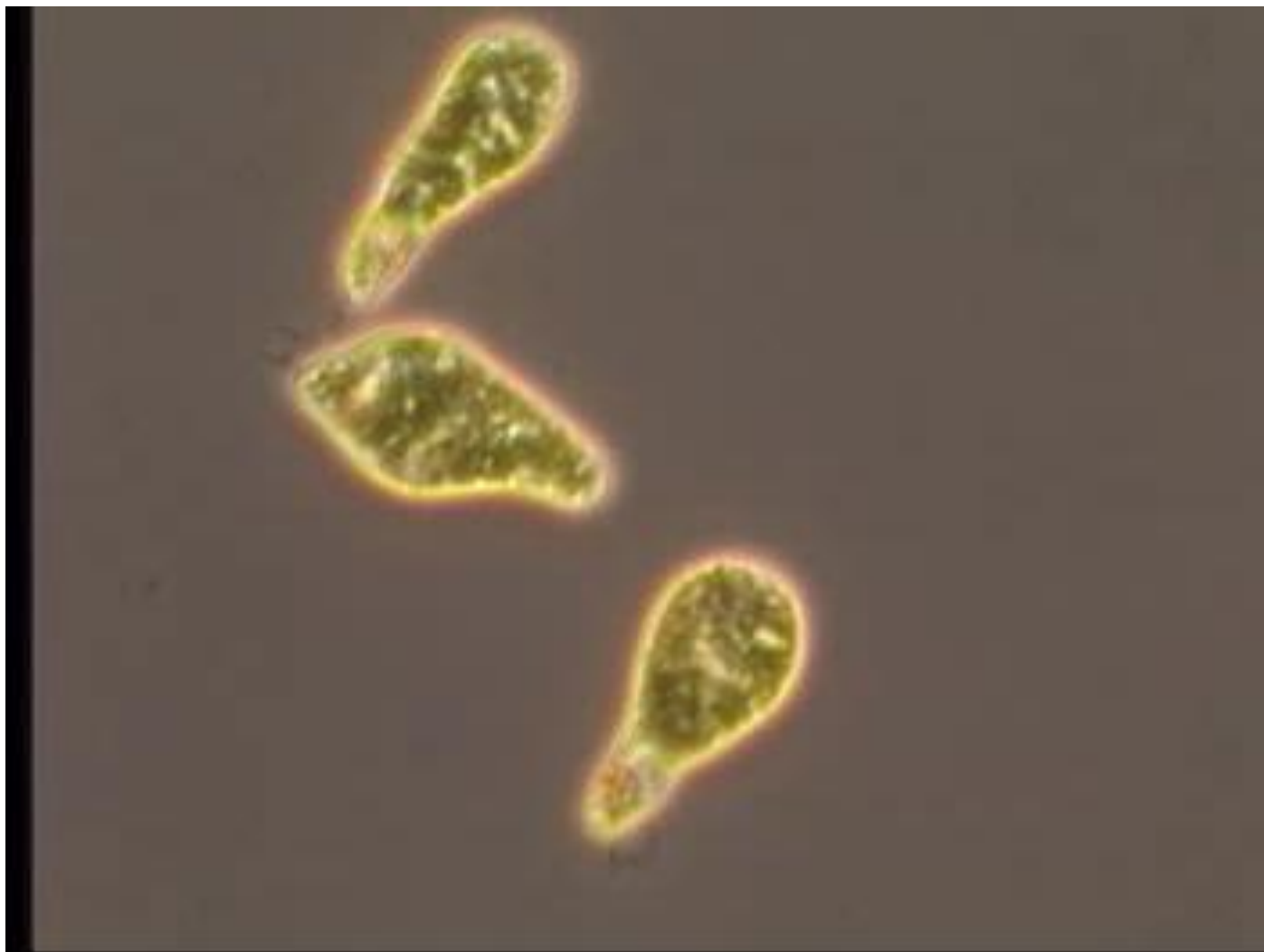
培養土

バイオ燃料原料

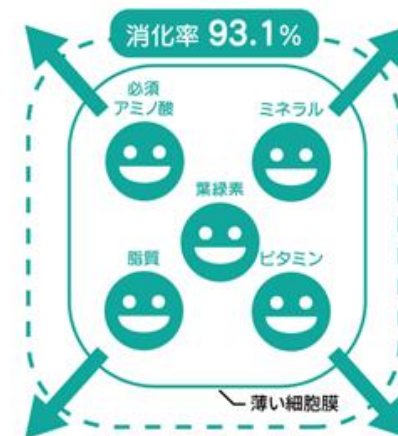


バイオジェット燃料
バイオディーゼル燃料

ユーグレナの特徴

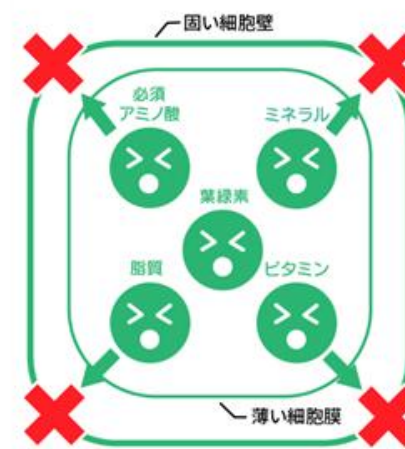


ユーグレナ



吸収を妨げる
細胞壁が無い
ため
栄養素を消化吸収しやすい

野菜



野菜は
固い細胞壁があり
栄養が吸収されづらい

ユーグレナ社の歩み - 原点と挑戦

世界初となる微細藻類ユーグレナの屋外大規模培養の成功を起点として、ヘルスケア事業やバイオ燃料事業を推進

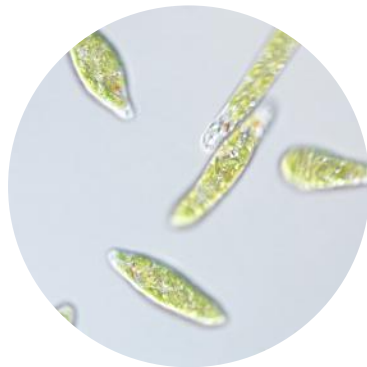
ユーグレナ社の原点



社長の出雲が1998年にバングラデシュを訪問
現地で目のあたりにした栄養失調問題
を解決したい、という思いから創業

栄養豊富な食品を探し求め、
微細藻類ユーグレナと出会う。

当時、まだ誰もユーグレナの
大量培養に成功していなかった



創業後成長と挑戦



東京大学農学部発の研究開発
ベンチャーとして創業
(2005)



2005年12月に世界で初めて
微細藻類ユーグレナの屋外
大規模培養に成功^{*1}



ヘルスケア事業の立ち上げと
拡大により黒字化を実現、飛
躍的な成長ポテンシャルを見
据えてバイオ燃料事業に着手

当社の技術力 - 微細藻類の培養方法

「独立栄養培養」 × 「従属栄養培養」 = 「光従属栄養培養」 を実現

全ての培養技術を有することが、ユーグレナ社の技術力の根幹

独立
栄養培養

培養難易度が高い

屋外培養プール



世界初の屋外大量培養
成功時の設備（2005年）

光従属
栄養培養

生産性と栄養バランスの両立

屋外培養タンク



現在の食品用
屋外大規模培養設備

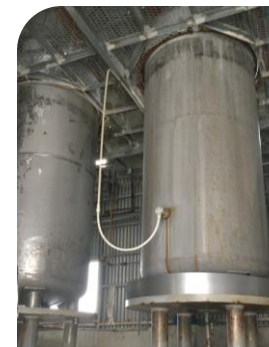


石垣島ユーグレナ
（食品用）

従属
栄養培養

培養効率が高い

屋内培養タンク



オーランチオ
キトリウム

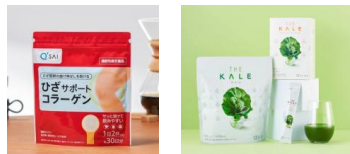
ユーグレナ・グループの事業

サステナビリティを軸に様々な事業を展開

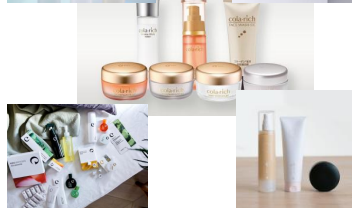
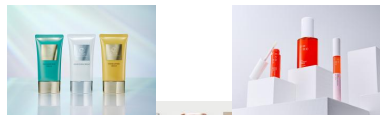
オーガニック成長、M&A、パートナーシップで、サステナブルな事業成長を目指す

ヘルスケア事業

健康食品



化粧品



1-グレナ

Q'SAI

yaeyama

épauler

mej



The Strategic FAB Company
SATICINE MEDICAL

バイオ燃料事業



その他事業

サステナブル
アグリテック
(1次産業)



バイオインフォ
マティクス



ソーシャル
ビジネス



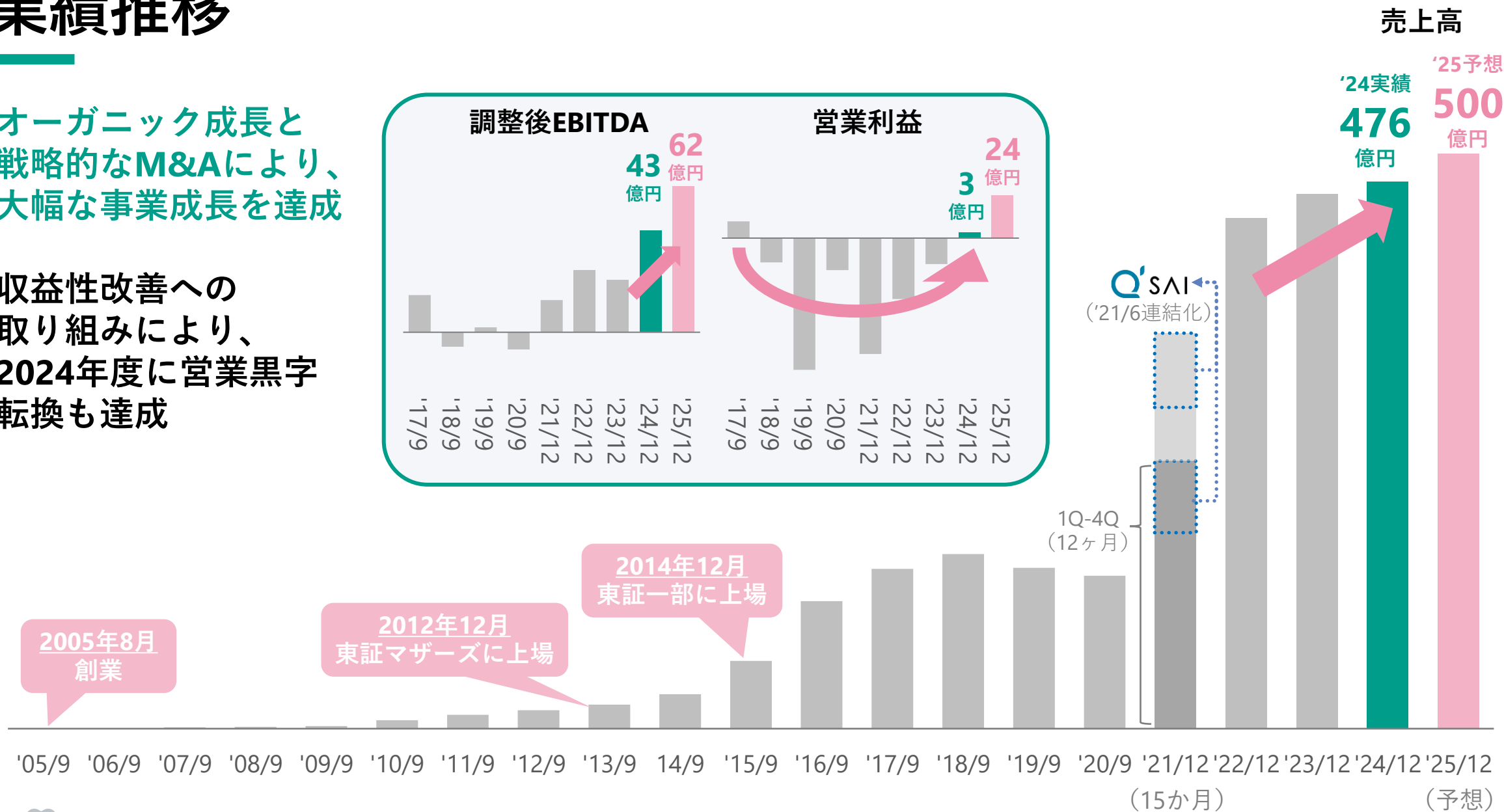
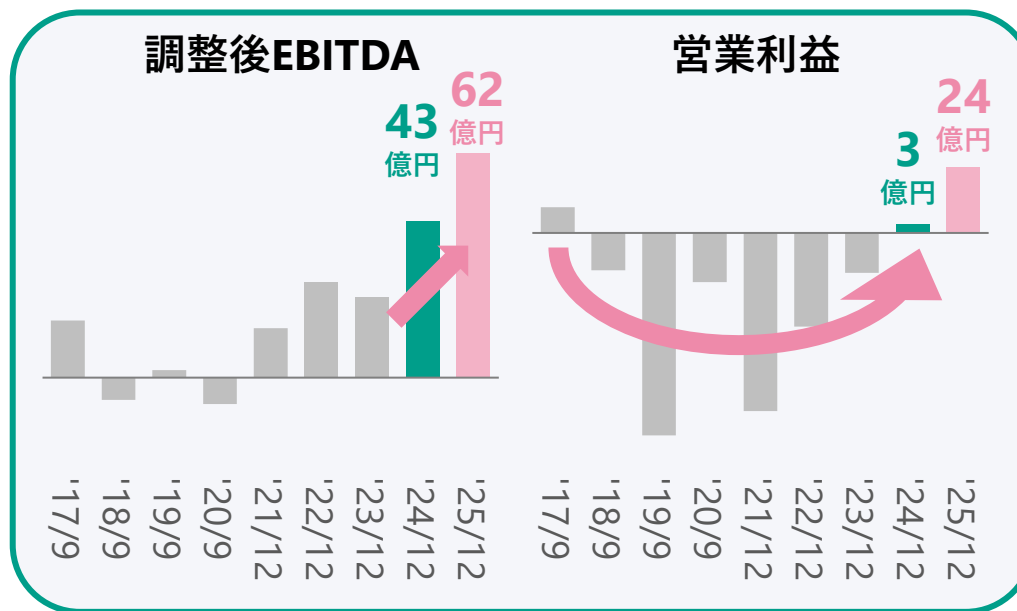
Grameen euglena

業績と今後の展望

業績推移

オーガニック成長と
戦略的なM&Aにより、
大幅な事業成長を達成

収益性改善への
取り組みにより、
2024年度に営業黒字
転換も達成



2030年に向けた成長イメージ - 事業ポートフォリオ

既存事業の成長と新たな売上の柱となるシーズの選択肢を確保

健康食品



売上高**600億円**

調整後EBITDA **90億円+**

化粧品



売上高**300億円**

調整後EBITDA相当*1
60億円+

【2024年実績】
売上高**9億円**
調整後EBITDA**▲4億円**

バイオ燃料
事業

【2024年実績】
売上高**23億円**
調整後EBITDA**▲4億円**

その他
事業

売上高
100億円
調整後EBITDA
10億円+

ヘルスケア
事業

【2024年実績】
売上高**443億円**
調整後EBITDA**66億円**

商業化



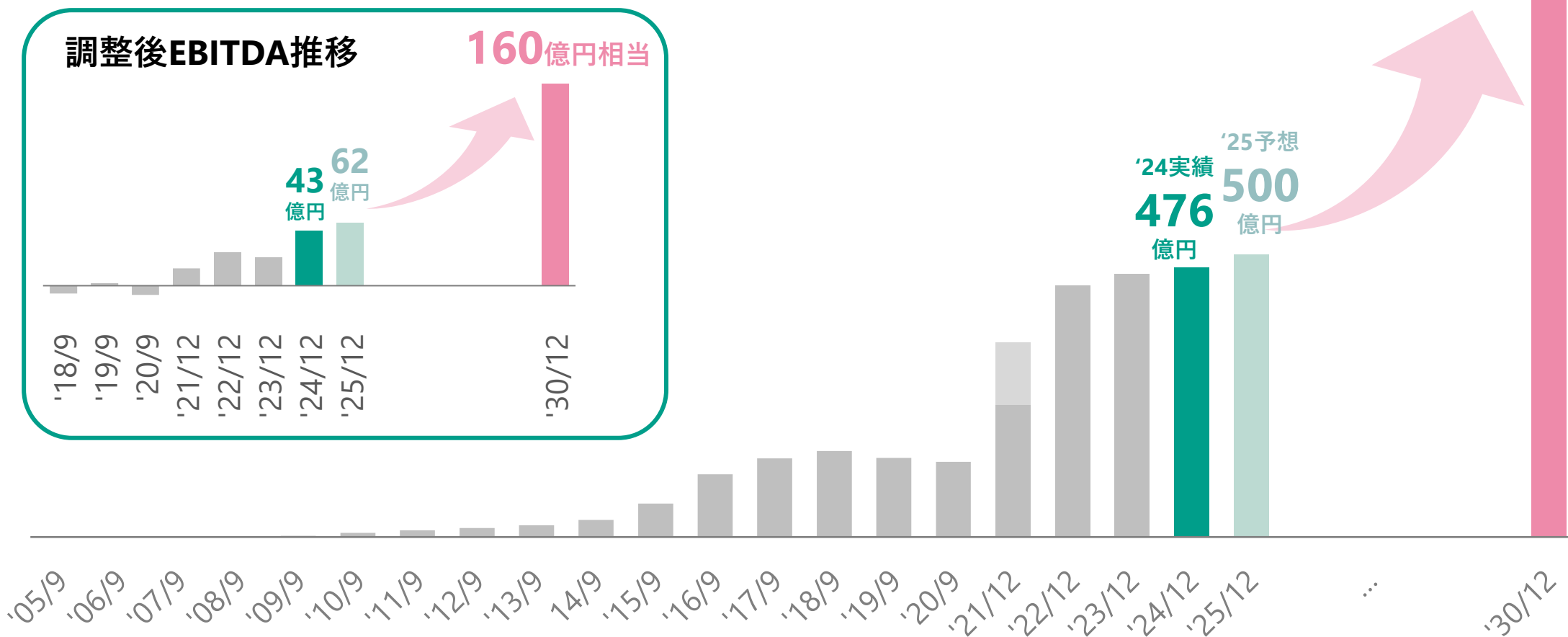
新規事業



2030年に向けた成長イメージ - 売上高と調整後EBITDA

売上高で1,000億円規模、調整後EBITDAで160億円相当の
収益ポテンシャルを有する事業ポートフォリオ構築を目指す

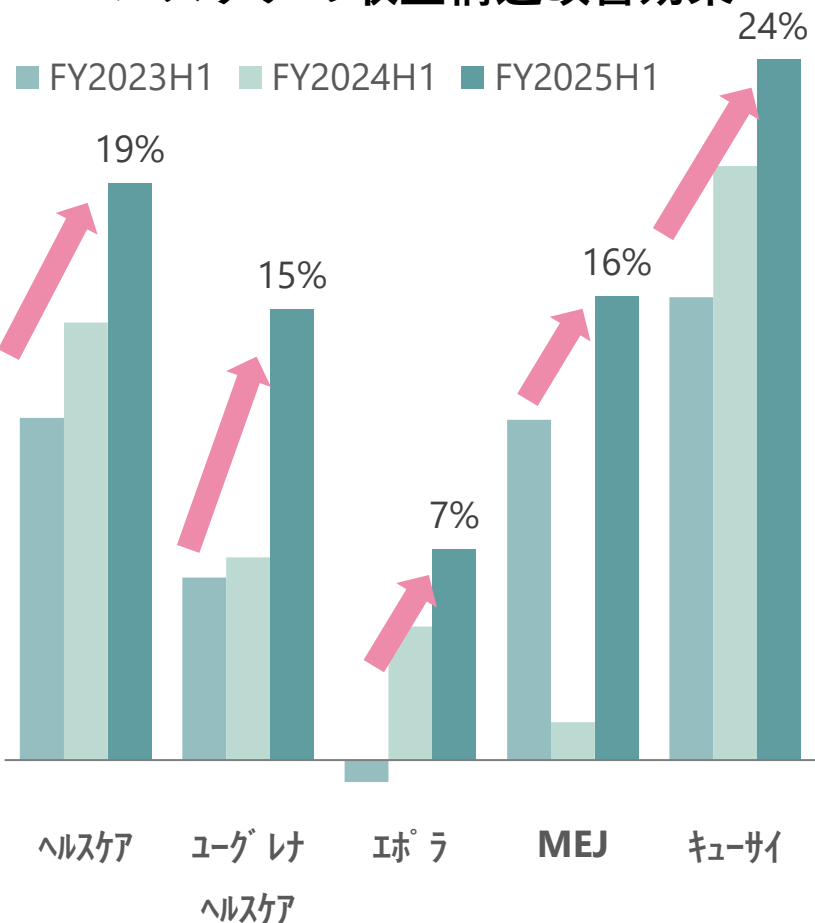
売上高
1,000億円規模



黒字体質への転換 - 調整後EBITDA

(百万円) ■ 実績 ■ '25/12の業績予想 ■ 当初想定 of 成長イメージ*1

ヘルスケアの収益構造改善効果



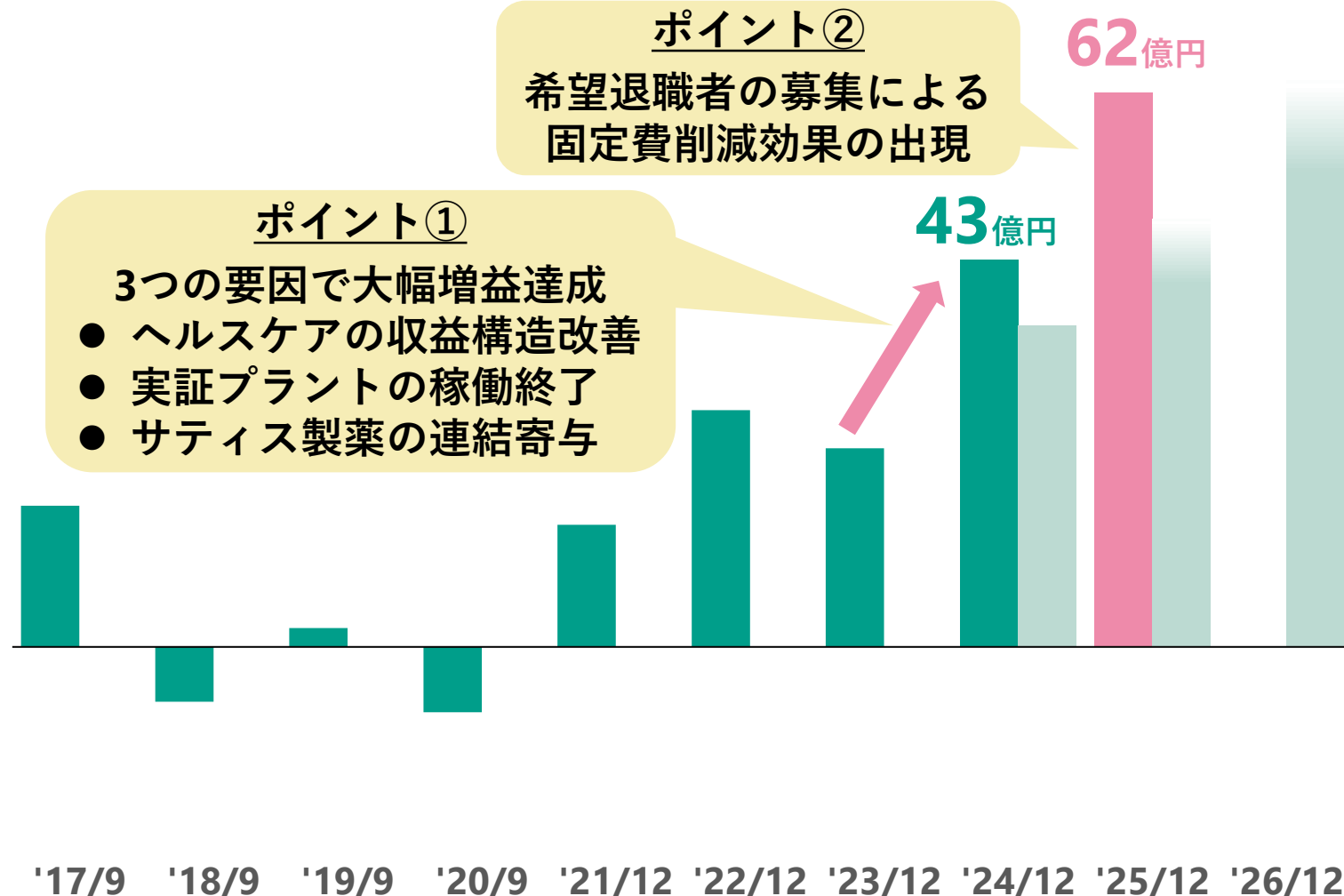
ポイント①

3つの要因で大幅増益達成

- ヘルスケアの収益構造改善
- 実証プラントの稼働終了
- サティス製薬の連結寄与

ポイント②

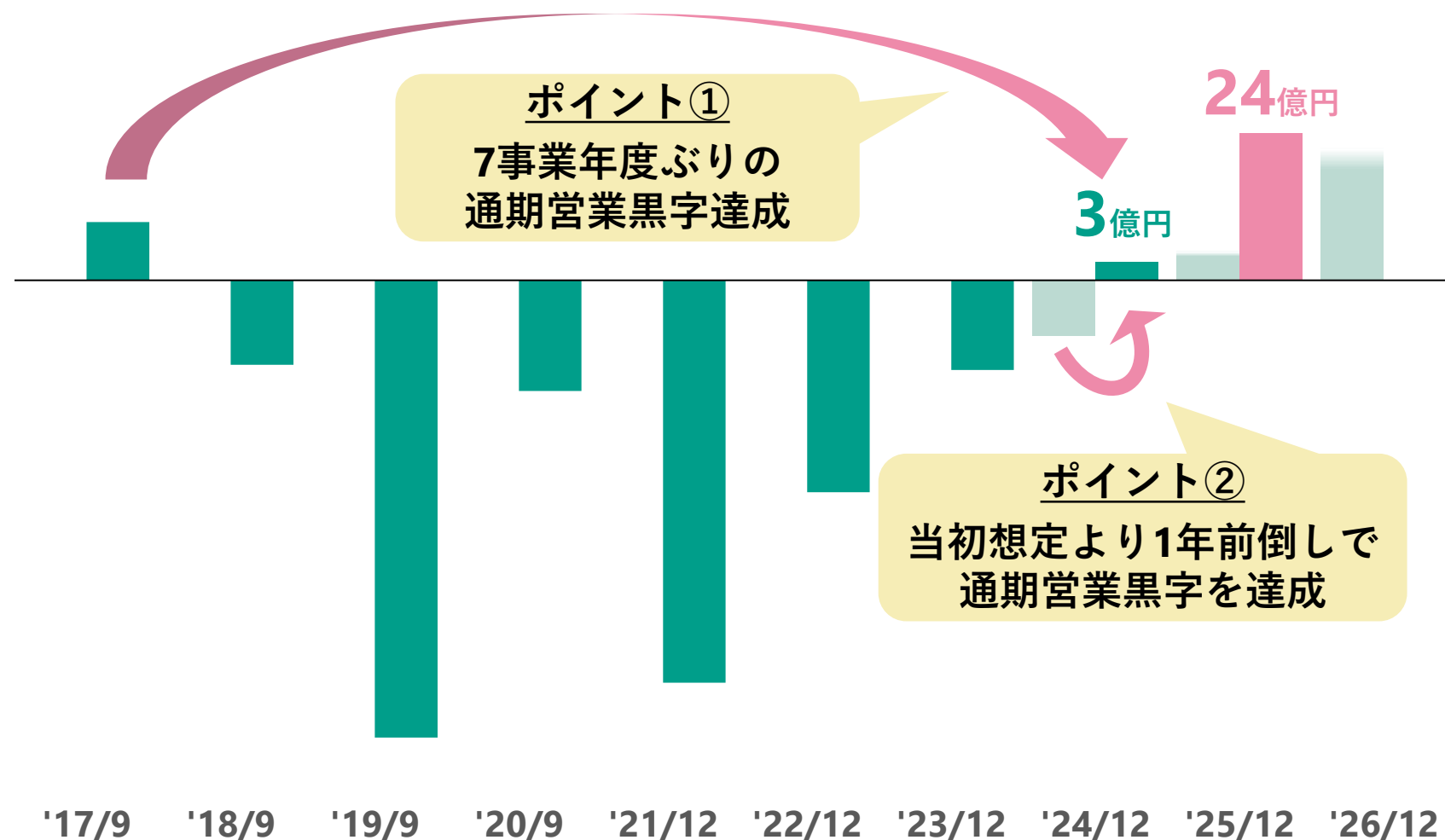
希望退職者の募集による
固定費削減効果の出現



黒字体質への転換 - 営業損益

(百万円) ■ 実績 ■ '25/12の業績予想 ■ 当初想定 of 成長イメージ*1

当初想定よりも
1年前倒しで
7事業年度ぶりの
通期営業黒字を達成



事業説明：ヘルスケア

直販（D2C） - 多様なブランド・ポートフォリオ

成長・成熟・収益源ブランドを組み合わせた分散型ポートフォリオにより、
安定成長と収益性のバランスを実現

1-グレナ[∞]

Q'SAI

mej

食品

からだにユーグレナ



ひざサポート
コラーゲン



ザ・ケール



C COFFEE



化粧品

one



CONC



akyrise



コラリッチ



épauler

epo

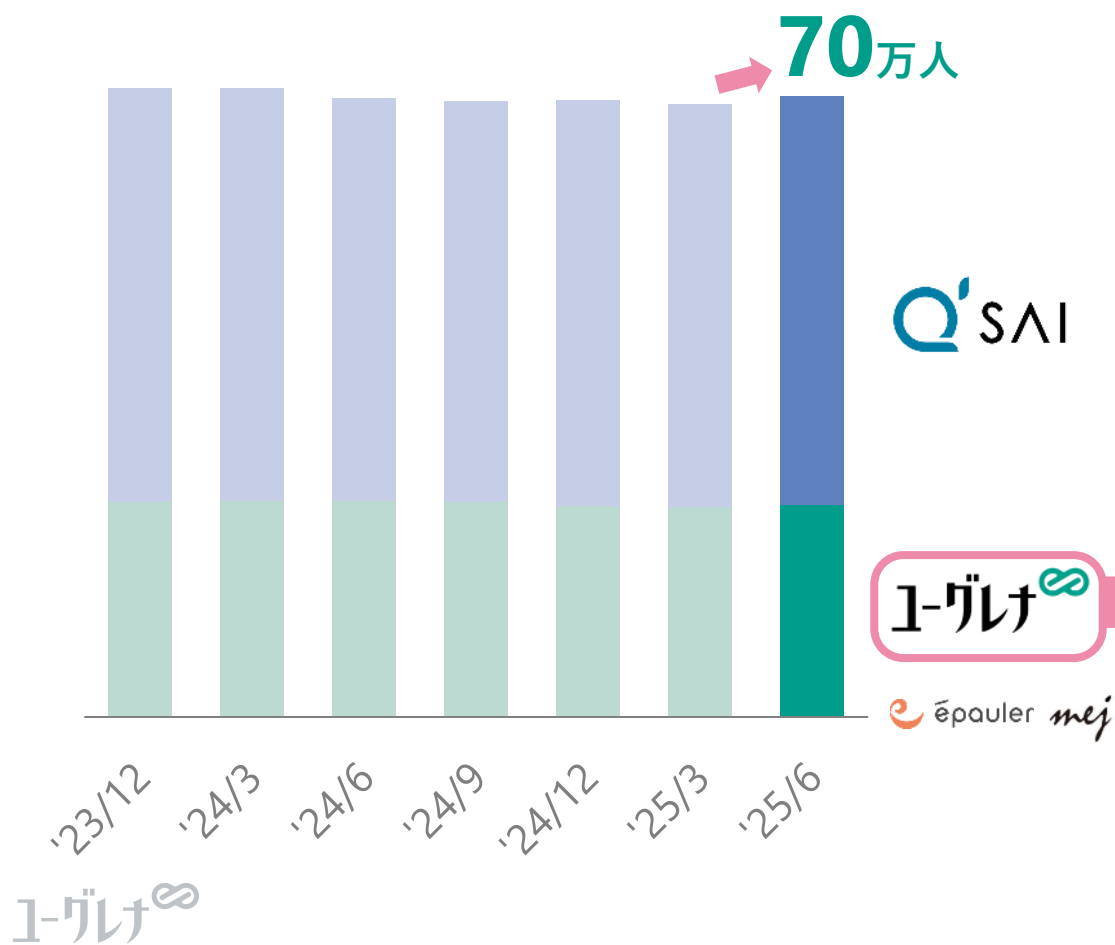


1-グレナ[∞]

直販（D2C） - 定期購入顧客基盤からの堅実なキャッシュフロー

サブスク型の顧客基盤により、安定したキャッシュフローとスケーラブルな成長を実現

グループ定期顧客数

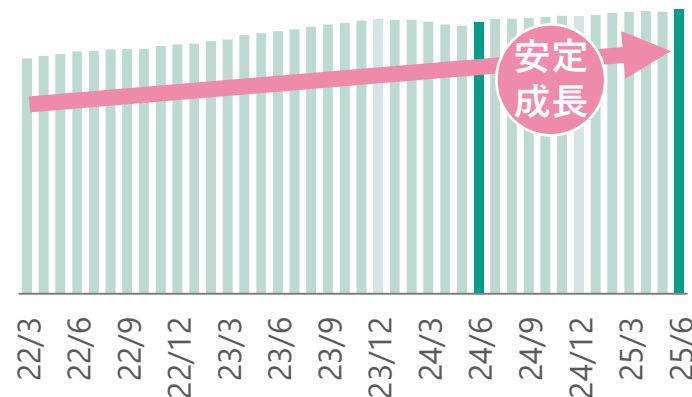


CONC（化粧品）



リンクルインジェクションが好調、定期顧客数が直近1年で2倍に

からだにユーグレナ（健康食品）



継続率の高い
基幹ブランドが
堅調な成長を維持

CONCの横展開

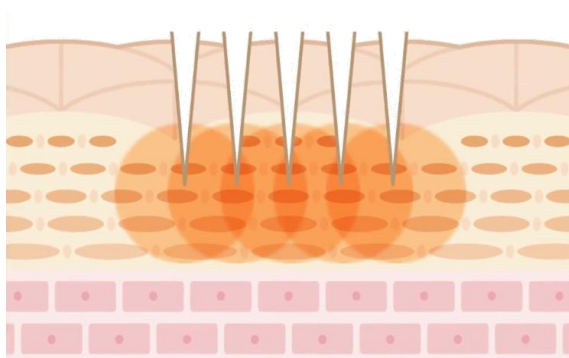
好調が続くノック注入型マイクロニードル商品の横展開に注力

CONC

- “非医療用初”ノック注入型マイクロニードル商品「リンクルインジェクション」が引き続き好調



チャンネル・用途
の横展開



ノック注入型
は当社がパイ
オニア

流通チャネル向け 「CONC LABO」



その時、その肌に。
CONC LABO

美白用美容液 「CONCブライティングエクション」



頭皮用美容液「FUSARI スカルプ インジェクション」

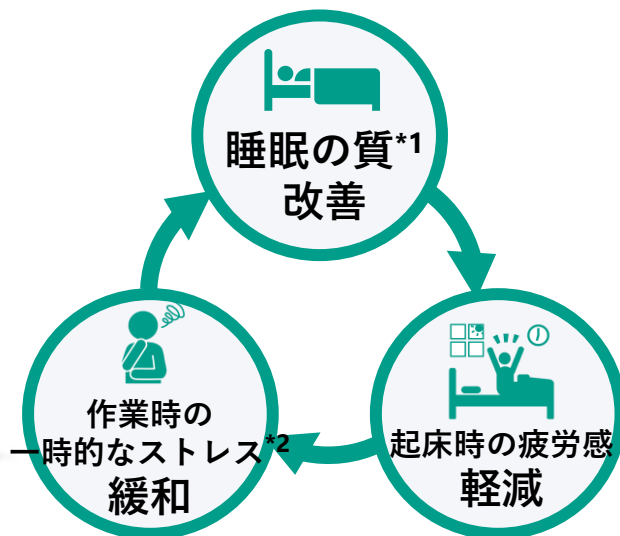


からだにユーグレナ

機能性表示商品の開発や、子育て世代向け商品で新販路も開拓し

ユーグレナの商品開発

機能性表示食品

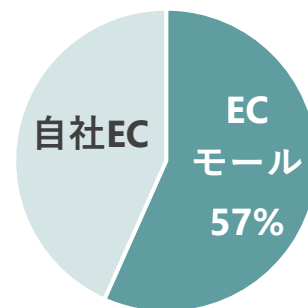


コレボレーション

子育て世代向け食品

- ECモールを活用した販路を開拓
- 過去累積売上のECモール比率は57%

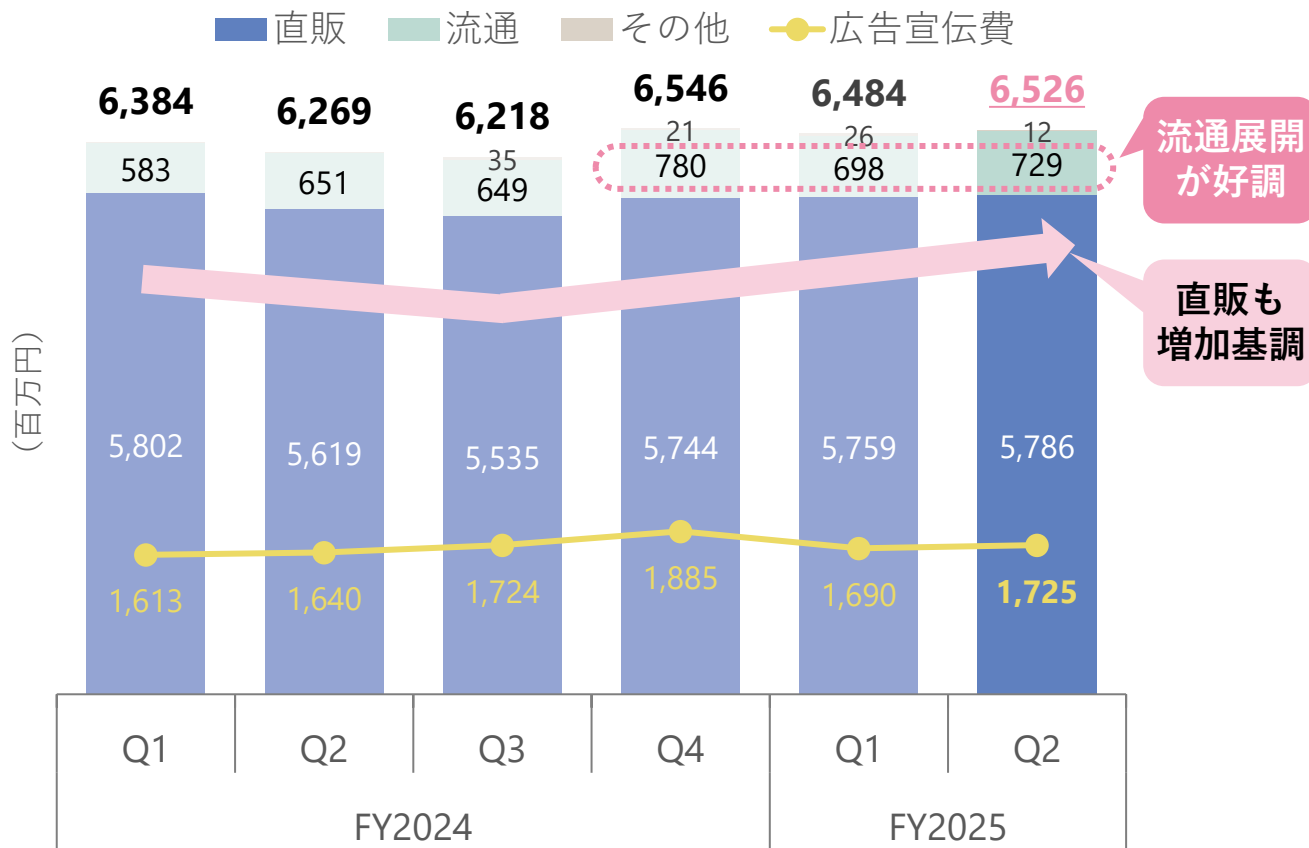
販路別累積売上比率



直販の定期顧客数増加と流通チャネルの拡大により売上好調

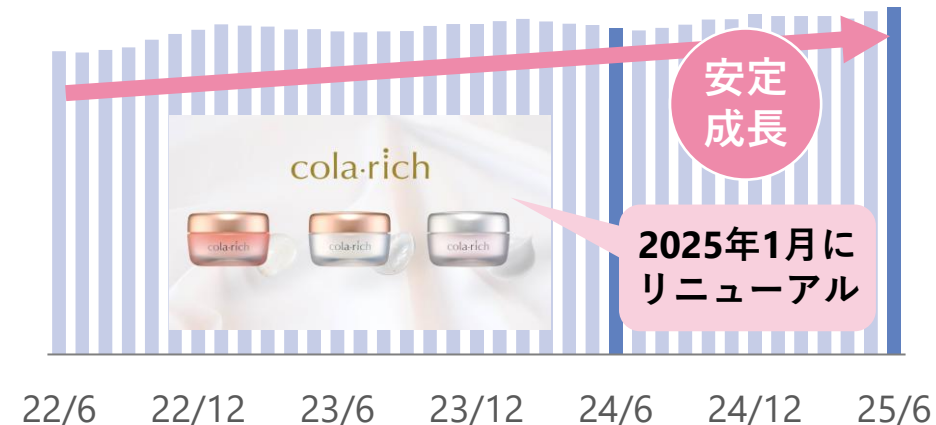
新ブランド育成に向けた投資も実施

チャネル別売上高推移



コラリッチ

定期顧客数の推移



投資ブランド

- 新ブランドの育成に向け、投資拡大予定



コラリッチ ソア



BIONIA

機能性素材の開発とOEMの強化

機能性素材としてのユーグレナの認知拡大やOEM展開に注力

サティス製薬グループの売上も好調

素材認知とOEM先の拡大

機能性素材としてのユーグレナの認知拡大

- アリナミン製薬社が「アリナミン®ナイトリカバー 快眠ユーグレナ」を全国ドラッグストアや主要コンビニ店舗に導入
- インバウンド需要の取込、Amazon販売も開始し順調に推移



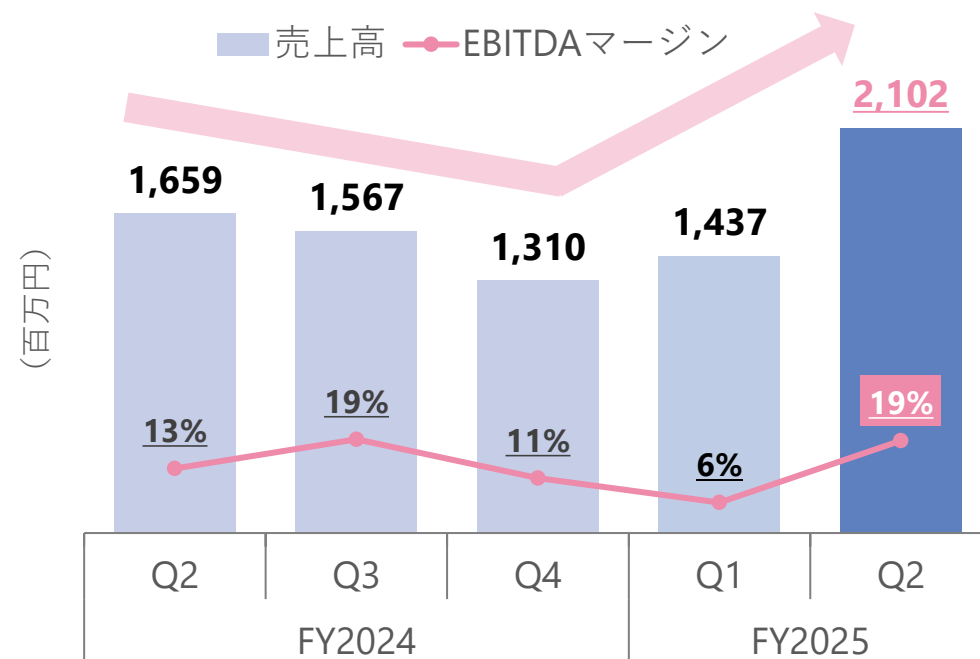
OEM先の拡大

- ドラッグストア向けOEMの継続強化
- 新規開拓も進展中



サティス製薬グループ売上推移

- 既存顧客からの受注が拡大
- グループ内での製造受託や研究の連携も推進中



ヘルスケア - 海外展開のポテンシャル

世界的な藻類市場の成長を背景に、ユーグレナやクロレラの粉末卸と商品展開の両軸で海外市場を開拓



クロレラ粉末



ユーグレナ粉末

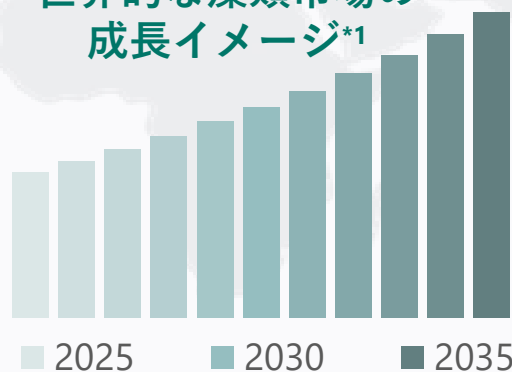


ユーグレナグループの商品

機会

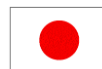
- スピルリナなど世界的な藻類市場の成長
- アジアにおける健康志向の高まり
- Made in Japan商品の逆輸入モデルの可能性

世界的な藻類市場の
成長イメージ*1



*1: 当社調べ

1-グレ[∞]



当社のケイパビリティ

- クロレラ原料は世界約40カ国への展開実績あり
- 米国GRAS認証・ハラール認証・コーシャ認証・ASC-MSC海藻認証で潜在市場にアクセス可能
- バイオ燃料商業プラントを有するマレーシアをアジア市場・イスラム市場への戦略拠点へ

事業説明：バイオ燃料

世界のSAF需要見通し - 政策主導で拡大する市場

EUと英国で2025年よりSAF 2%導入が義務化。CORSlA*¹や各国規制導入により、2030年に向けて国内外のSAF需要拡大が加速化する見通し

バイオ燃料導入に向けた各国方針

CORSlA

- 2019年比85%までCO₂排出量を削減
- 2024年から自主的運用（126か国が参加）、2027年から全ICAO（国際民間航空機関）加盟国に原則適用

欧州



- EU RED III
- ReFuel EU

アジア



- 日本
- ⇒10%@2030年～

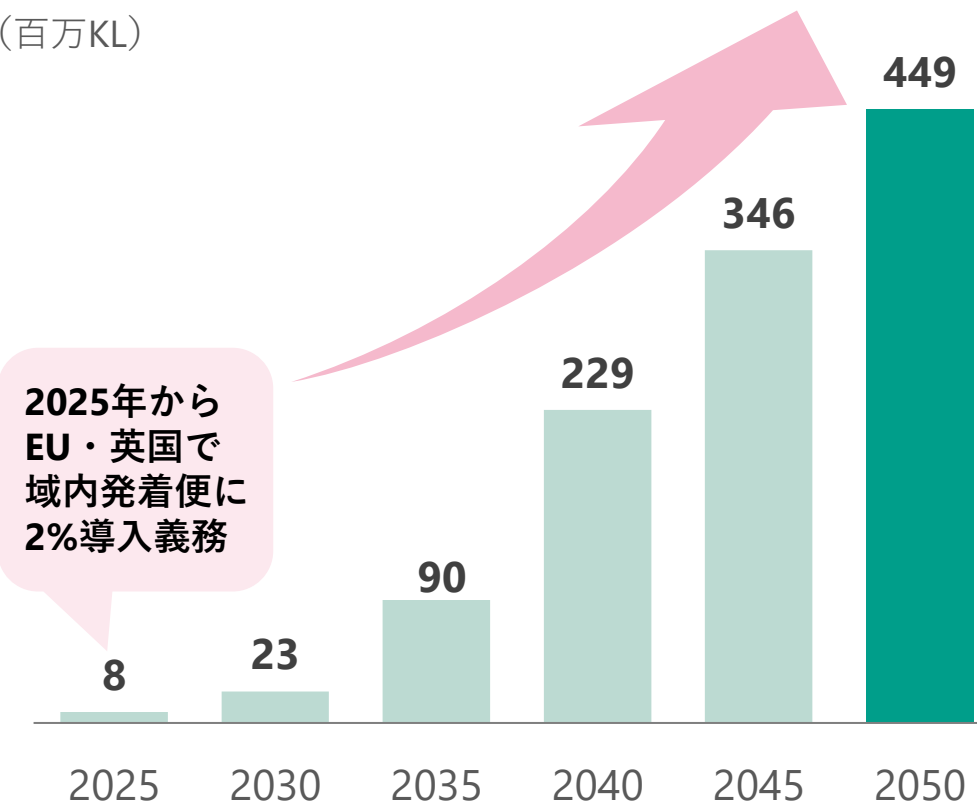
北米



- Grand Challenge
- RFS/LCFS等

世界のSAF需要の見通し*²

（百万KL）



ビジネスモデル - 商業化のイメージと今後のステップ

2025年7月に商業プラント出資比率が15%で確定し、製造面の主要マイルストーンを達成
約10万KL/年の取扱いに向けて、今後は原料調達/生産面と販売面における体制構築に注力



バイオ燃料 - 出資比率15%確保による多大な収益アップサイド

2025年7月に15%出資が完了、年間約10万KLのバイオ燃料取り扱いが可能に

当社の収益ポテンシャル*1は、売上高300億円規模、税引前利益60億円以上



- PETRONAS社のPengerang Integrated Complex (PIC)内に建設
- 2025年より建設着手済み、2028年下期迄の稼働開始を予定
- プロジェクト金額は約13億ドル



(3社合弁会社)

当社シェア15%確定で
年間約10万KLの
取り扱いが可能に

アジア最大級のバイオ燃料製造プラント

- 製造能力は約72.5万KL/年、需給に応じてSAFとHVOをフレキシブルに生産
- 原料供給ソースや主要な国際航路にアクセスしやすい地理的優位性



建設現場 (2025年6月時点)

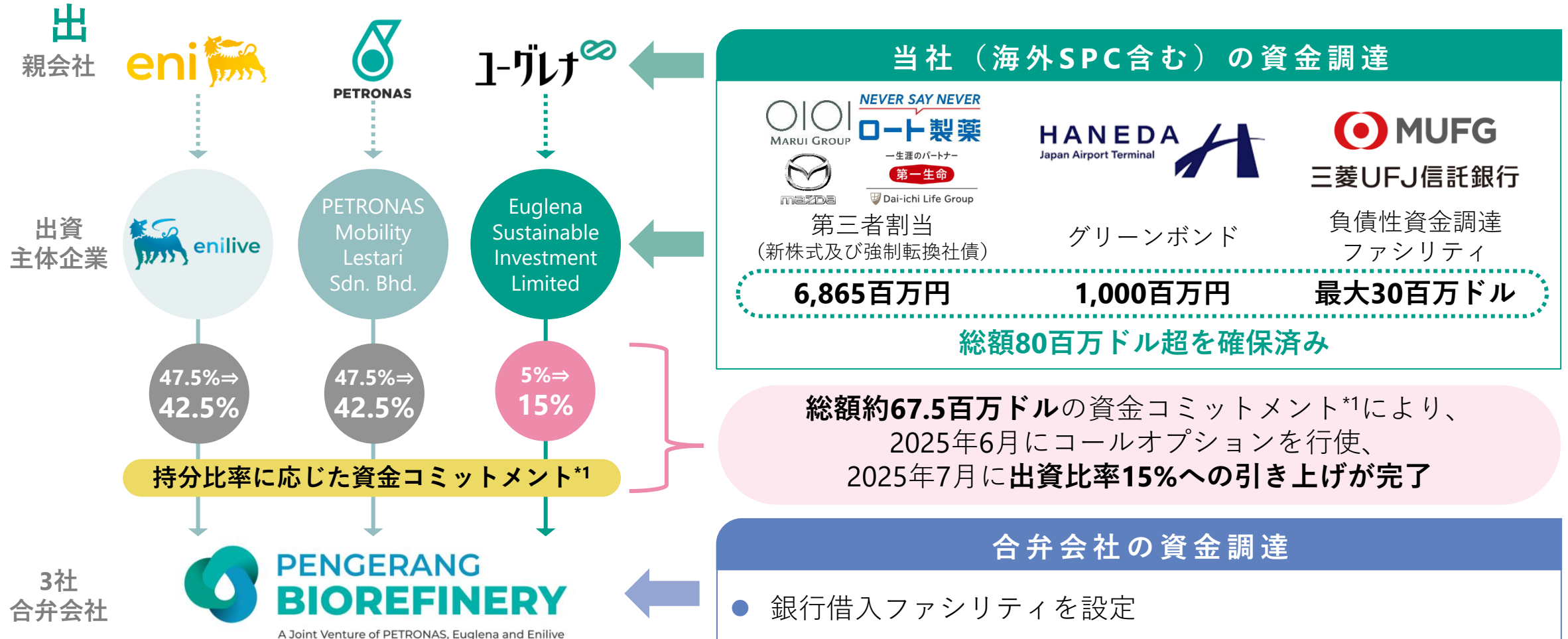
当社の収益ポテンシャル*1

- 売上高 (原料/製品トレーディング):
300億円/年規模
- 税引前利益 (資金調達影響を除く):
60億円/年以上 + トレーディングからの利益

*1: バイオ燃料取扱量約10万KL/年相当、バイオ燃料価格@300円/L、本合弁会社の純利益率20%以上・配当性向100% (資金調達影響は加味せず) という前提条件のもと、例示を目的として作成した当社独自のシミュレーション値。当社又はプロジェクトの正式な予測値・目標値ではなく、今後の事業進捗や市場動向により変動

商業プラント - 出資比率15%確保に向けた資金調達スキーム

出資比率15%引上げに伴い、総額約67.5百万ドルの資金コミットメント*1を拠



*1: 出資及びローンの提供（JVCoの資金需要に応じて段階的に実行）、並びに各株主による今後の資金拠出義務の履行を担保するための保証（当社は銀行保証）の提供

バイオ燃料事業の商業化 - 共同プロジェクトのパートナー企業



1-グレイ



社名	Eni SpA
本社	ローマ（イタリア）
売上高	888億ユーロ（14.5兆円）
営業利益	10.4億ユーロ（1.7兆円）
総資産	1,470億ユーロ（23.9兆円）
会社概要	● 欧州を拠点とするグローバル統合エネルギー企業 ● イタリアで2つのバイオ燃料製造工場（年産キャパシティ165万トン）を稼働。うちヴェネチア工場は石油精製所をバイオ燃料製造プラントに転換した世界初の事例 ● 2050年までに正味炭素排出量ゼロ達成を目指す
事業展開	70か国
従業員数	32,000人以上

社名	Petroliaam Nasional Berhad (PETRONAS)
本社	クアラルンプール（マレーシア）
売上高	3,200億リンギット（11.2兆円）
営業利益	1,141億リンギット（4.0兆円）
総資産	7,667億リンギット（26.8兆円）
会社概要	● アジアを代表する統合エネルギー企業 ● マレーシア航空の初SAFフライトへの供給でパートナーシップ、既存設備におけるCo-processing（混合処理）などバイオ燃料領域への参入を推進 ● 2050年までに正味炭素排出量ゼロ達成を目指す
事業展開	50か国以上
従業員数	43,000人以上

微細藻類軸の「探索」

事業ポートフォリオの変化 - 過去10年と次の10年

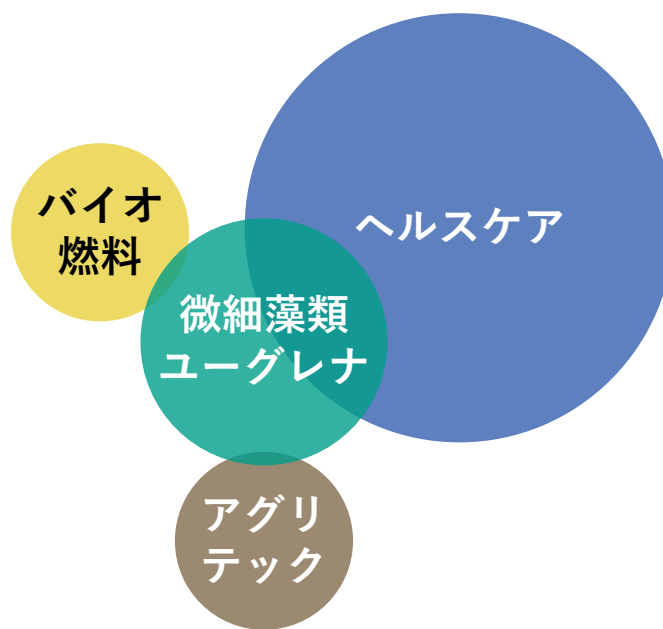
微細藻類を軸にヘルスケア・バイオ燃料・アグリテックとの重なりを強化

微細藻類軸での「探索」と既存事業の「深化」による両利きの経営で、次の10年の成長を目指す

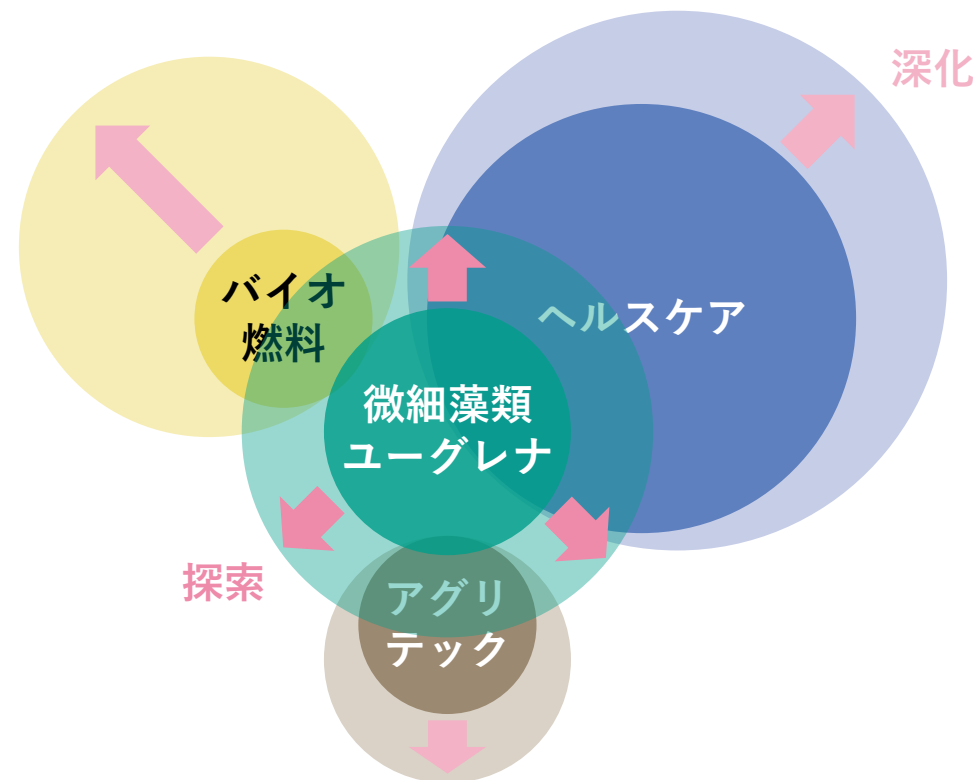
2015年



2025年



2035年



微細藻類軸の「探索」 - 食料

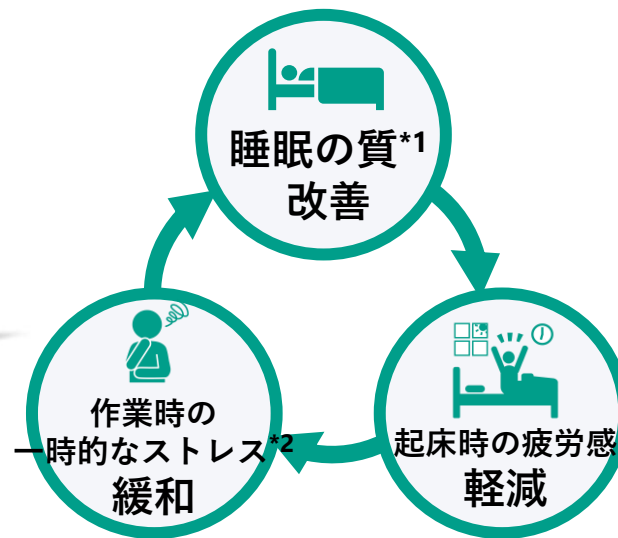
機能性サプリメント、コラボレーション食品、学校給食等を通して、ユーグレナの健康便益の裾野を拡大

新バイオマスの5F



「食料」用途の事例

機能性食品（サプリメント）



アリナミン製薬社
へのOEM商品

コラボレーション



学校給食



*1: 睡眠の質とは、眠りの深さ、すっきりとした目覚めのことを指す

*2: ストレスとは、作業時の一時的なイライラ感、緊張感を指す

微細藻類軸の「探索」 - 海外展開のポテンシャル

世界的な藻類市場の成長を背景に、ユーグレナやクロレラの粉末卸と商品展開の両軸で海外市場を開拓



クロレラ粉末



ユーグレナ粉末

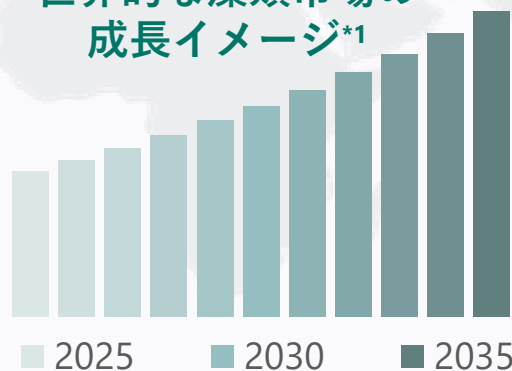


ユーグレナグループの商品

機会

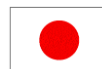
- スピルリナなど世界的な藻類市場の成長
- アジアにおける健康志向の高まり
- Made in Japan商品の逆輸入モデルの可能性

世界的な藻類市場の
成長イメージ*1



*1: 当社調べ

1-グレ[∞]



当社のケイパビリティ

- クロレラ原料は世界約40カ国への展開実績あり
- 米国GRAS認証・ハラール認証・コーシャ認証・ASC-MSC海藻認証で潜在市場にアクセス可能
- バイオ燃料商業プラントを有するマレーシアをアジア市場・イスラム市場への戦略拠点へ

微細藻類軸の「探索」 - ファインケミカル

ユーグレナなどの微細藻類から高機能・高純度の成分を抽出し、様々な用途の原料として活用

新バイオマスの5F



ファインケミカル（高機能原料）用途の事例

ユーグレナなどの微細藻類から高機能・高純度な成分を抽出し、食品・化粧品など多様な用途の原料として利用

ユーグレナ
から抽出・加工



ユーグレナ
エキス



ユーグレナ
エキスEX

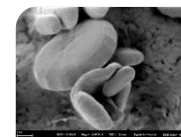


ミドリ麹
エキス



ユーグレナ
発酵オイル

パラミロン*1の抽出・加工



精製パラミロン
(食品原料)



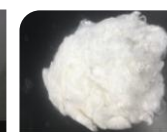
パラミロン原末
(化粧品原料)



バイオ
プラスチック



パラミロン
フィルム



パラミロン
レーヨン

ワックスエステル*2
の抽出・加工



化粧品原料



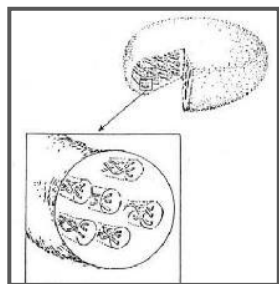
潤滑油

ユーグレナの独自成分パラミロン

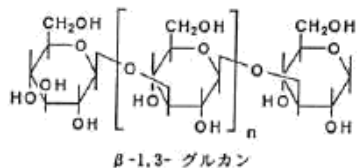
ユーグレナが含有する希少成分「パラミロン」には様々な機能が期待される



撮影：青山学院大学 福岡伸一教授



パラミロンの粒子構造
(Marchessault&Deslandes, 1979)



パラミロンの構造

- β -1,3-グルカンと呼ばれる食物繊維の一種で、**ユーグレナが生成する希少成分**
- 難消化性であり、消化管から吸収されずに外へ排出される

＜＜期待される機能性や現在の研究テーマ＞＞

- アトピー性皮膚炎症状緩和
- 免疫バランス調整
- インフルエンザ症状緩和
- 関節リウマチの症状緩和
- 肝障害保護・腎障害抑制
- 脂肪、コレステロールの排出
- 胃潰瘍症状緩和
- 大腸がん抑制
- 学習能力低下の改善
- 加齢に伴う運動機能の維持

微細藻類軸の「探索」 - パラミロンの規格化

パラミロン原料を規格化し、パラミロン高配合の新商品（食品）を新発売

食品用

原料規格化

- 食品素材として国産最高濃度の「精製パラミロン」を開発、食品用途の活用・大量生産に向けて原料規格化



精製パラミロン

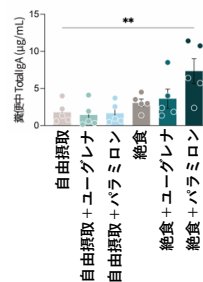
商品化

- 希少成分パラミロンを高配合した「パラミロン1000」を新発売



R&D

- 絶食時のパラミロン摂取により短期間で腸内環境と免疫機能に関する効果が期待できる可能性を確認

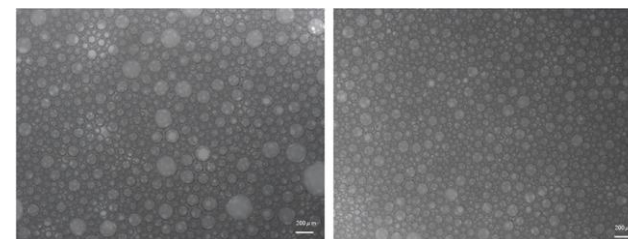


化粧品用

- 医薬部外品・化粧品原料「パラミロン原末（ユグレナ多糖体）」を開発、規格化。医薬部外品にも配合可能な原料



パラミロン原末



泡立ち後の洗顔料の泡の顕微鏡写真

➡ 自社商品に加え、他社向け原料販売とOEM拡大を通じて、微細藻類の生産量拡大を目指す

微細藻類軸の「探索」 - 肥料、飼料

これまでの研究成果をもとに、機能性肥料・飼料の売上創出を目指す

新バイオマスの5F



「肥料」「飼料」用途の事例

R&D

微細藻類を土壌に加えることで成長を促進



微細藻類入り飼料の給与で成長と免疫機能を促進



商品

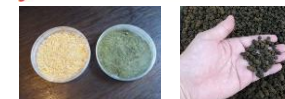
肥料



飼料商品



あすかアニマルヘルス株式会社



エンドユーザー



ユーグレナ肥料・飼料を使用して育てた生産物に対する「ユーグレナ育ち」認定制度



*写真はイメージ

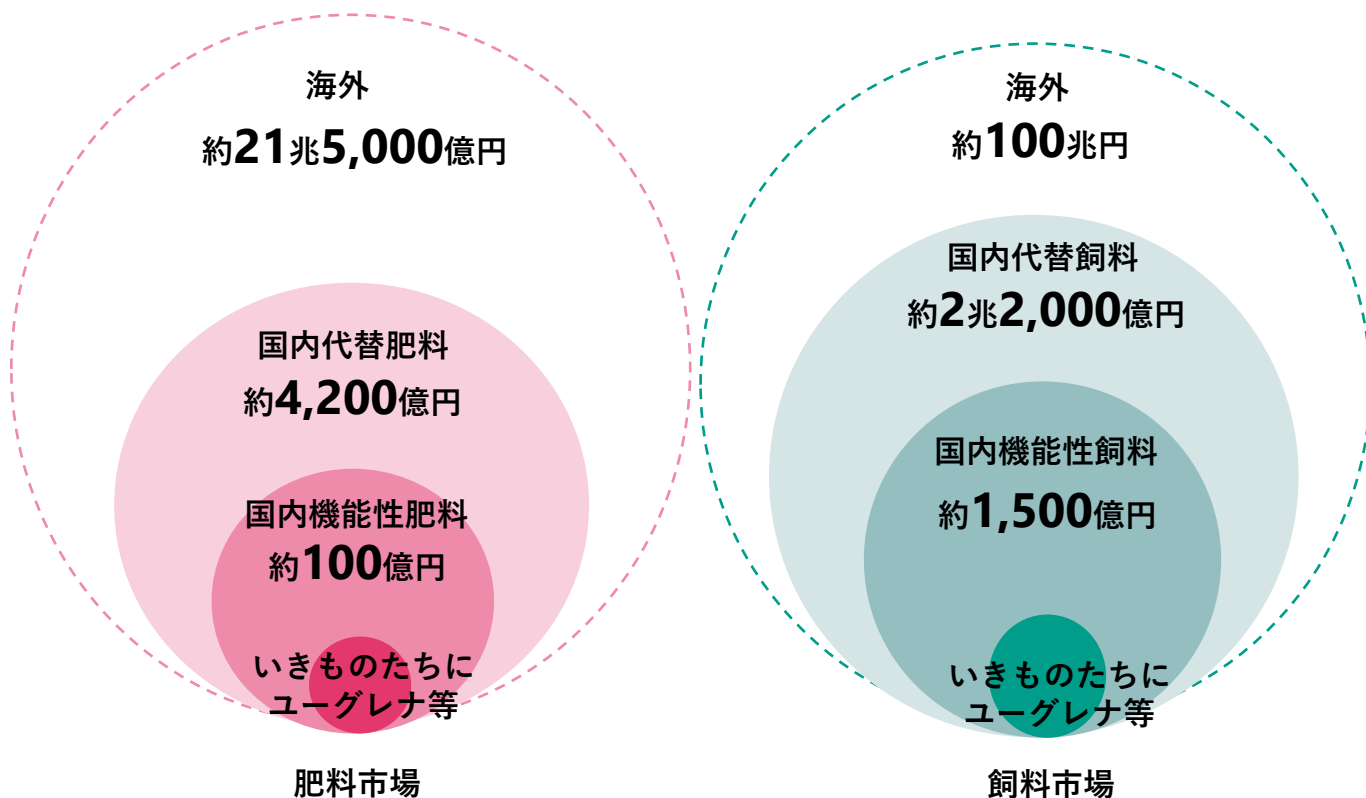
“YES! ぶり”
(ユーグレナを給餌)



アグリテック（第3の柱） - 市場規模と成長イメージ

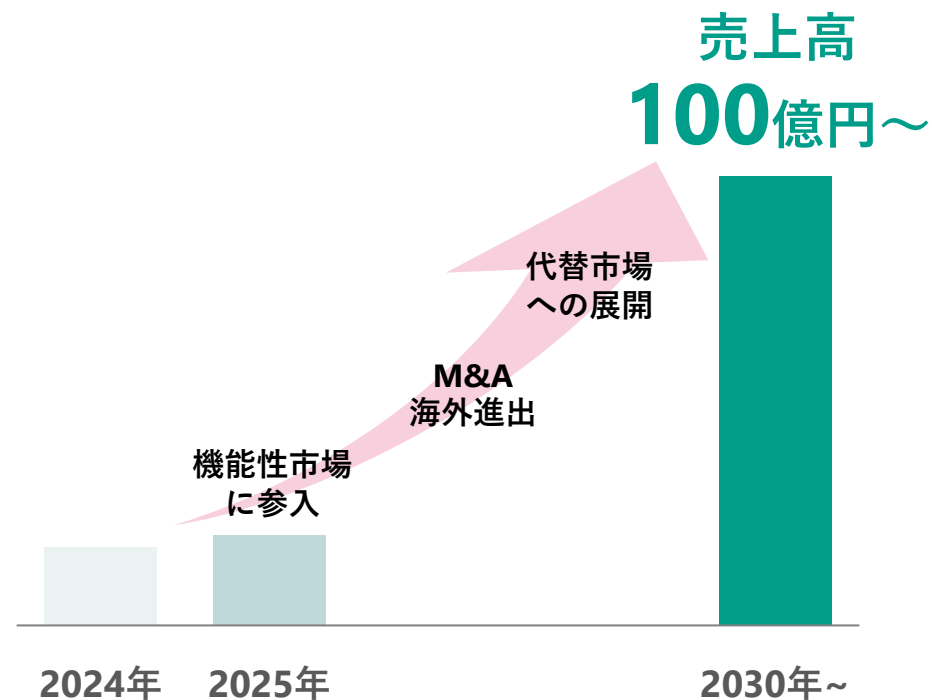
ユーグレナを中心とした微細藻類入り肥料・飼料の研究開発を推進。少量・高単価の機能性肥料・飼料市場から参入し、中期的に代替市場への展開を目指す

市場規模のイメージ*1



中期的な成長イメージ

新商品の開発、M&A、海外進出、他事業とのシナジーを軸に事業拡大を狙う



微細藻類軸の「探索」 - 燃料（バイオ燃料原料）

サステナブルな原料ソースとして、藻油は様々な優位性を有する。実現に向けて微細藻類ユーグレナの大規模・低コスト培養技術開発を推進

新バイオマスの5F



バイオ燃料原料としてのポテンシャル

① 複数の培養方法にチャレンジ可能

- 独立栄養培養
- 従属栄養培養



② 細胞壁が無く、油脂抽出が容易

- 他の藻類と比べて低コスト・低エネルギーで油脂抽出が可能

③ SAF製造に適したワックスエステル*1を生成

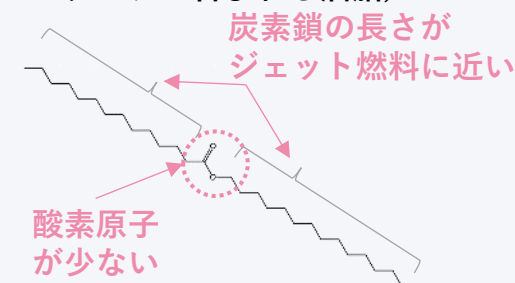
- 低エネルギー・低水素使用量でSAF製造が可能

④ 脱脂藻体の多様な用途

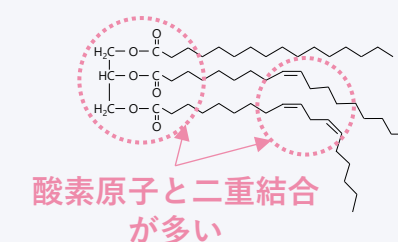
- 脱脂藻体を飼料・肥料販売することで、製造コストの低減が可能



ワックスエステル*1
(ユーグレナに含まれる油脂)



トリグリセリドの例*2
(一般的な植物油に含まれる油脂)



*1: β -1,3-グルカンと呼ばれる食物繊維の一種で、ユーグレナが生成する希少成分

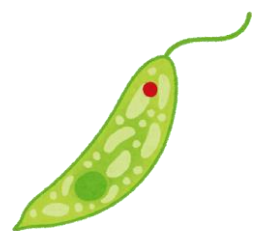
*2: ユーグレナが体内に生成する脂質成分

微細藻類軸の「探索」 - ユーグレナの多段活用の可能性

微細藻類ユーグレナの全成分を多段階に活用し、藻体価値を最大化
サステナブルかつ高収益なビジネスモデルの確立を目指す

抽出・精製フロー

利用用途



微細藻類
ユーグレナ

抽出

ファインケミカル領域



ワックスエステル



化粧品原料



精製パラミロン



機能性食品

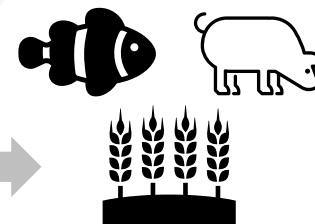
残渣



脱脂藻体*1



バイオ燃料用藻油



飼料・肥料

微細藻類軸の「探索」 - 生産量の拡大

2030年まではファインケミカルや機能性肥料・飼料
を切り口に技術開発と生産量拡大を推進

2030年代にバイオ燃料用藻油と
脱脂藻体活用による代替肥料・飼料の
本格展開開始を目指す

生産量拡大に伴い
生産コストも低減



微細藻類由来
バイオ燃料



代替肥料・飼料

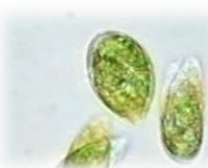


食品

機能性肥料・飼料
ファインケミカル（化粧品・高機能原料）

2025年

2030年～



微細藻類
生産量

20th

Anniversary
Euglena Co., Ltd.

IRメルマガのご案内

IRメルマガではユーグレナのIR情報をタイムリーにお届けしています。
ぜひご登録ください！

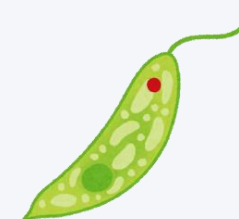
ご登録はこちらから ↓



【IR情報は下記HPご参照ください】

・IRウェブサイト

<https://www.euglena.jp/ir/>



【シェアードリサーチ社による当社レポート】

(日) <https://sharedresearch.jp/ja/companies/2931>

(英) <https://sharedresearch.jp/en/companies/2931>

【株式・IRに関するお問い合わせ】

<https://www.euglena.jp/contact/c03/>

